

THE YOSANO FUTURE PRESS

与謝野みらい新聞 第八号

与謝野みらい新聞
2017年12月25日発行
発行所 与謝野町役場
編集 企画財政課
総計画策定委員会
ワーキングチーム

- 1 佳境を迎えた総計画策定まちづくりの基本理念 これまでの歩み
- 2,3 総合計画素案(抜粋)
- 4 素案に対してコメント募集中 4コマ漫画



佳境を迎えた総合計画策定

人口は減っていく、子どもの数も減っていく。そんな中であっても、高齢化率は上昇するという「人口減少と少子高齢化」は、経済規模の縮小や人手不足、空き家の増加など、私たちの暮らしに大きな影響を及ぼすと言われています。そんな縮小する社会になっても住民や地域が輝き続けることができるように、まちの未来について「みんな」で考え、まちづくりの主人公は「みんなである」とし、総合計画策定の重点としてきました。

私たちは、「与謝野町」の魅力と強みを再確認し、「わたしたちのまちはわたしたちでつくる」という意識を持つとともに、住民が安心・安全に暮らすことができ、そして豊かで美しい自然と景観を未来へつなげていくためには、まちづくりの方向性をみんなで共有することできる「まちの未来図」が必要で。この「まちの未来図」こそが、今まさに策定を進めている第2次与謝野町総合計画になります。

今号では、これまでみなさんから頂いた「想い」、みなさんが語った「想い」をそれぞれが描く未来像として受けとめ、総合計画素案としてまとめ、その抜粋を2・3面でお知らせします。

これまでの歩み 振り返り

- まちづくりセミナー 平成28年10月14日
- 第2次総合計画策定シンポジウム 平成28年10月28日
- 職員ワーキングチーム会議 平成28年11月18日、12月15日、平成29年1月12日、2月9日、3月24日、4月18日、5月16日、6月20日、7月21日、9月5日、10月13日、11月14日
- ファシリテーション研修 平成29年2月4日
- まちかどインタビュー 平成29年5月14日から適宜実施
- よさの想い人インタビュー 平成29年5月23日から8月20日
- 中学生みらい会議 平成29年6月6日、6月23日(加悦中) 平成29年6月19日(江陽中) 平成29年6月8日(橋立中)
- 高校生みらい会議 平成29年6月9日、6月23日(宮津高) 平成29年7月11日、7月19日(加悦谷高)
- 職員みらい会議 平成29年7月24日、7月26日
- あっちこちみらい会議 平成29年6月7日、6月14日、7月11日、7月19日、8月4日、8月9日、9月11日、9月4日、9月12日(全10団体)
- 子育て世代みらい会議 平成29年8月2日
- みんなの・みらいが・みえるミーティング 平成29年8月27日
- あっちこちアンケート 平成29年9月22日
- テーマ別みらい会議 平成29年9月11日(産業・雇用)、9月13日(移住定住・観光)、9月15日(健康・福祉)、9月20日(結婚・出産・子育て)、9月22日(教育・文化・スポーツ)、9月25日(自然・生活環境)

総合計画は「みんな」の計画であり、「みらい」に向けた計画であるとともに、まちの未来が「みえる」計画でなければなりません。この素案は、これからも様々な視点での意見をプラスオンし更新を重ねていくことで完成に近づいていきます。

与謝野みらい新聞を手にとってご覧いただいたみなさんは、愛する「与謝野町のみらい」をどう描きますか。どんな未来図を描くのかは、まちづくりの主人公である「みんな」。そう、私たち次第です。



「まちの未来図」実現のための“まちづくり理念”3つの(み)

- みんな** 幸せを願い、豊かさを求め、より良い暮らしを望み、子どもたち、孫たち、そしてまだ見ぬ未来の世代につなぎたいという想いがまちづくりの原動力になります。与謝野町に暮らす「みんな」の手でまちづくり(共創)を進めていきます。
- みらい** 自分自身の描いた未来を一つひとつ実現していくことは、未来へ向かう一人ひとりの営みでもあり、未来のまちを形づくることでもあります。今を生きる私たちが未来を創造し、将来世代のためにも「みらい」を見据えた未来志向のまちづくりを進めていきます。
- みえる** まちづくりの主人公であるわたしたち住民(みんな)が描いたまち(地域)をそれぞれの立場で、またお互いに協力しながら実現していくために、ヒト・モノ・カネ・情報などのまちの資源や動きをみえる化しまちを創造することが大切となります。そんな「みんな」にとっての「みえる」まちづくりを進めていきます。

第2次与謝野町総合計画素案 に対する コメント

みなさんのご意見を募集中

現在、与謝野町ホームページおよび各庁舎住民係において、第2次与謝野町総合計画の素案を公開しています。みなさんに共感していただけるもの、みなさんが共感できるものとなるよう、住民のみなさんからのご意見をお待ちしております。

また、現在掲げている町の将来像「水・緑・空 笑顔かがやく ふれあいのまち」は、住民のみなさんに親しみ愛されるフレーズとして浸透し、豊かで美しい自然とみなさんの笑顔が輝き、共にまちづくりを進めてきました。

与謝野町が誕生してまもなく12年。時代は急速に変わり、町が直面する課題も様相が変わっています。第2次与謝野町総合計画では、与謝野町の未来像をイメージする新しいフレーズを掲げることとなりました。これまでいただいたみなさんのご意見から4案を提案させていただきます。

新たな与謝野町の未来像案

- ① 住民と共に創る 与謝野の未来
- ② みんなで創ろう みらいが見える まちづくり
- ③ みんなの笑顔咲く 一人一人が主役のまち
- ④ 人×自然×未来 笑顔を織りなす京のまち

※みなさまからのご意見を受け、文章および与謝野町の未来像は表現が変わる場合があります。

- 提出期限 平成29年12月15日(金)～平成30年1月15日(月)
- 提出方法 次のいずれかの方法により、①住所②氏名③連絡先(法人、その他団体の名称、所在地および連絡先)を明記の上、ご意見をお寄せください。

電子メール 件名に「第2次与謝野町総合計画素案に対する意見」と記載の上、メール本文に直接ご意見を記入し、下記メールアドレスに送信してください。

郵送・持参 FAX 募集期間内必着で、下記の提出先までご送付ください。

提出先・お問い合わせ先 与謝野町総合計画審議会事務局(与謝野町役場企画財政課内)
〒629-2292 京都府与謝郡与謝野町字岩滝 1798番地1
▶ FAX番号 0772-46-4630
▶ e-mail kikakuzaisei@town.yosano.lg.jp

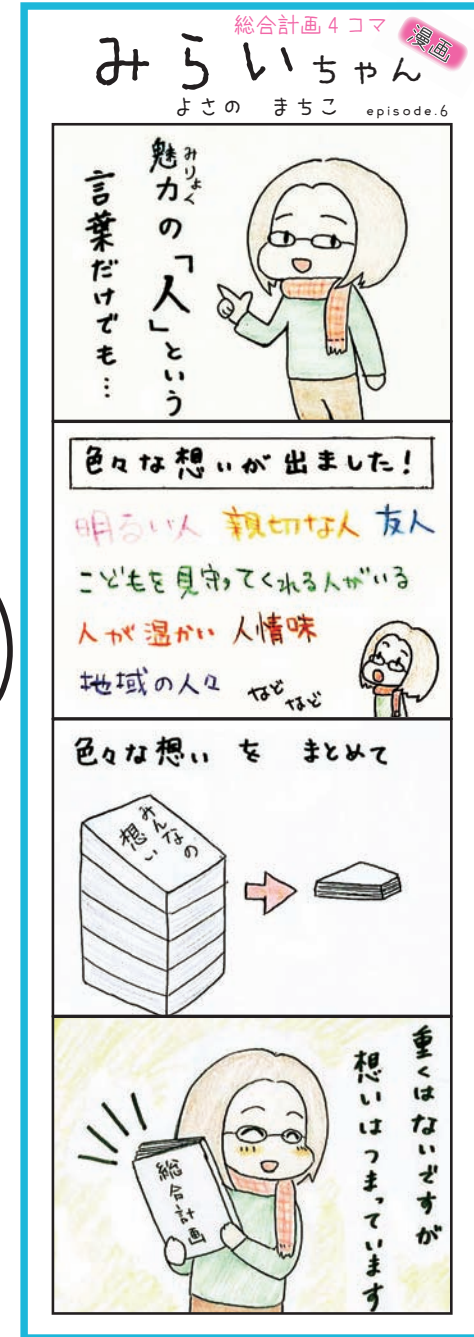
注意事項

- ・お寄せいただいたご意見に対する個別回答はいたしませんので、ご了承ください。
- ・個人情報については、提出されたご意見の内容を確認する場合にのみ利用します。
- ・ご意見などの概要を公表する際は、個人情報は公開いたしません。
- ・電話、口頭による受付には応じかねます。

訂正とお詫び

平成29年10月10日発行の与謝野みらい新聞第7号第2面中、全国の自治体数に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

《誤》1718の自治体 《正》1741の自治体 (平成29年8月末現在)



総合計画は、計画策定の趣旨などを示す序章、与謝野町の今を伝える第1章に続き、まちの未来像などを描いた第2章の基本構想、その未来を実現するために各分野において取り組む施策方針を示した第3章の基本計画で構成しています。

基本構想では、「産業・雇用」「移住定住・観光」「健康・福祉」「結婚・出産・子育て」「教育・文化・スポーツ」「自然・生活環境」「協働・コミュニティ・行財政」の7つの分野において、それぞれ基本方針を示しています。

まちの未来を実現するための分野別方針

産業・雇用

● 産業基盤を強化して一人ひとりが個性を活かし安心して働けるまち

「もっと働く場の確保を！」

これは、住民アンケート、想い人インタビュー、あっちこっちみらい会議、中高生みらい会議・・・全ての場面でたいへん多くの住民の方から出た想いです。

「安心できる暮らしのためにも仕事をして収入を得る」「安定した収入を得られる仕事があれば、自然と人は集まってくる」「人が集まり、知恵を出し合い、ときには切磋琢磨しあえば、地域経済は活性化し、地域は元気になる」「元気な地域からはチャレンジを生み出すエネルギーが生まれ、それがまた新たな働く場を生む」。そんな好循環をあらゆる産業分野に生み出して想いに応えたい。

地域の暮らしを支えてきた織物業や安心安全で豊かな食を支えてきた農業をはじめとするこのまちの産業は、先人たちの新しい挑戦によって現代に受け継がれてきました。そして今、若き担い手たちは、先人たちが培ってきた知恵と技術を最先端の技術と融合するなど、新たな挑戦をはじめています。このように、わたしたちは時代に合わせて「変化すること」、変化に「挑戦すること」、そしてその挑戦をみんなで「応援すること」が大切だと考えています。

また、労働力人口の減少と担い手の高齢化が進む中、急激に進化する人工知能の登場により、働く環境は大きく変化することが予想されています。この大きな変化にも柔軟に対応しながら、みんなが培ってきた知恵、技術をもちより、今ある資源を最大限に活用し、互いに共創しながら人財を育み、一人ひとりが思い描く豊かな生活のできる与謝野町をみんなで目指しましょう。

移住定住・観光

● 地元を誇りに想い、人の流れを生むまち

与謝野町のどんなところが好きですか？この質問に、皆さんから沢山の声をいただきました。四季折々の表情を見せる「大江山」、黄金の稲穂が輝く「加悦谷平野」、鮭が遡上する「野田川」、日本三景を形成する「阿蘇海」などの自然、約300年の歴史がある「丹後ちりめん」、ツヤツヤの「お米」、それらを生み出す「人」。改めて与謝野町ならではの資源がたくさんあることに気づきます。しかし、与謝野町に暮らすわたしたちが「与謝野町の魅力」にまだ気づいていないのではないのでしょうか。

まず、暮らすわたしたちが「与謝野ならではの」魅力を掘り起こし、地域を愛し、誇りに思うことが、人の流れを生むまちへの第一歩です。その素晴らしい良さに気付けば、与謝野町を知らない人に伝えたいくなるでしょう。

自信をもって笑顔で「いらっしやい」とおもてなしませんか。きっと交流した人も嬉しく、楽しくなるでしょう。

そうして、与謝野へ来られた人だけではなく、遠くの人とも交流し、与謝野町のファンになってもらいましょう。

両親やおじいちゃん、おばあちゃんが与謝野生まれの人、与謝野のお米を食べている、着物に興味がある、行ったことがある、泊まったことがある、遊んだことがある。そんな「人」との「つながりの輪」を広げましょう。

「人とのつながりの輪」を広げていく事は一朝一夕ではできません。成功する鍵は、成功するまでやり続けることが大切です

「与謝野町の誇りを知ってもらうこと」を入り口に、「移住・定住・観光」へと結びつけましょう。ひとりでも多くの人を「よそ者」から「よさの者」に。

健康・福祉

● みんなが自分らしく幸せに生きるまち

だれもが健康に長生きしたいという願望はいつの時代もわたしたちのライフスタイルの中心になるものですが、他にも「このまちで暮らしながら、最期（さいご）をむかえたい」「地域で助け合い、絆を深めたい」といった想いが聞かれました。その一方で、

少子高齢化の進行、核家族化や単身世帯の増加、生活様式や価値観の変化に伴い、昔に比べて、人・地域とのつながりが少なくなり、将来が不安という声もあります。

住民が、自分の思い描くように、自分らしく生きるには、まずは「一人ひとりの“こころ”と“からだ”の健康」が大切です。

現在、町では生活相談や各種健診を行うなど、心と体の健康増進や介護予防に力を入れています。住民が健康になることは、一人ひとりの生活の質を維持・向上させるだけでなく、まち自体も社会的に発展・活性化し、まちの“げんき”につながります。

住民全員が「自分らしく幸せに生きること」をスローガンとし、住民自身が心も体も健康が保てるような取組みを、より重点的に行います。また、そこに手助けがいる方には、福祉によるサポートを行います。

しかし、今後ますます心のより所が必要になってきます。子どもから高齢者までの地域のふれあいやつながりを深める居場所づくりには、ご近所の“ちから”が欠かせません。住民・まちが元気になって、住民主体で「つながり」を大切にし、お互いに助け合って住み慣れたまちで幸せに生活できる環境を一緒に作りましょう。

結婚・出産・子育て

この町には、豊かな自然があり、のびのびと子育てできる環境

本号では、第2次与謝野町総合計画素案の一部をご紹介します。素案全文については、与謝野町ホームページおよび各庁舎住民係で1月15日まで公表しています。

この素案は、現時点でまとめたものであり、今後もみなさんからの想いをつめこみ、更新をおこないながら総合計画は完成していきます。そのためにも、みなさんからのご意見をお待ちしています。

があります。そして、気持ちのいいあいさつが行き交い、子どもを見守る温かい人たちがいます。そのような環境で育った子どもたちの笑顔は、まちの宝です。

与謝野を想うたくさんの方の願いは、その子どもたちの笑顔が家族や地域、さらには町全体をあふれる笑顔でつなぐことです。

そのためには、世代を超えたつながりを大切に、家族・地域・社会・行政が手を携え、頼ること、頼られることのできる関係を築き、安心して結婚・出産・子育てでできるような環境を創っていくことが必要です。さらに、あいさつなど自分にできることを一人ひとりが意識し、行動していくことが大切です。

これからここで暮らす人たちが寄り添い支え合っていくために、気軽に相談や交流のできる場、親子の学び・育ちの場などを創り、みんなの力で笑顔をつないでいきましょう。

そして、子どもたちが心も体も健やかに成長し、平成52年(2040年)になっても与謝野に愛着を持ち、この町で結婚・出産・子育てをしたいと思える「つながりで笑顔を未来に紡ぐまち」を一緒に目指しましょう。

教育・文化・スポーツ

● 魅力ある教育が活力ある人や地域を創るまち

与謝野町は、いにしえから、モノづくりと人づくり、とりわけ、地域を愛し、貢献する精神を育んできた町であり、その先人の魂は、今なお、わたしたち一人ひとりの心の中に息づいています。

現在、本町は、避けられない人口減少をはじめ、困難な課題が山積んでいます。しかし、課題は生きた教材であり、その解決に挑戦している人達の真摯な姿勢は、人生の教科書であるという視点に立てば、本町は、教育資源が豊富で、魅力的な教育環境にあると言えます。

与謝野想い人から寄せられた言葉のとおり、今も昔も、まちづくりの原点は人づくりです。

わたしたちは、先人の意志を引き継ぎ、一人ひとりの人権を尊重し、一人ひとりの多様な個性に光をあてることに努力を惜しまず、それを積み重ねてきた底力が土台にある学校教育を、より地域に開かれたものにしていくとともに、青少年の健全育成の推進、生涯学習と生涯スポーツの充実、国際交流の積極展開と誇りある歴史や文化の継承を通じて、未来を創造できる人財として必要な基礎を養う人づくりに努めます。

そして、町の魅力を結集した教育から、自ら学び続ける力と故郷を想い続ける心を併せ持ち、「地域を活かすために学びに行く」「仕事がないなら創りだす」という意欲溢れる人財と同時に、世界のどこで暮らそうと、故郷への想いで、いつまでも町とのつながりを大切にできる人財を育成することで、活力に満ちた希望ある未来を手繰り寄せましょう。

自然・生活環境

● 過去と現在と未来が連なり共存するまち

このまちには、豊かな自然や町並みとその背景となる歴史があります。それらを愛し、守ってきたひとりで満ちています。その人

を育ててきた風土と空気、つながりがあります。それら全てを受け継いでいくことは、このまちを未来につなげていくことです。ここで生まれた愛着はつながりを生み、豊かな人を育て、自然と景色を輝かせ、このまちの未来を守っていきます。

わたしたちは災害や犯罪の脅威にさらされず、健康で充実した日々をおくり続けなければなりません。日々を不安なく過ごしながら、まちに触れ、過去を思い起こし、現在と未来を見つめ、話し合い、豊かな生活を作り出していかなければなりません。

そのためには、当たり前のお生活をおくれること、まちを見つめ認めること、それらを伝え・聞くことが必要です。

恵まれた自然を残しつつ誰もが愛せるまちを目指すと同時に、安全かつ安心な生活を営むためのインフラ・交通・施設を整え、豊かな生活を支える基盤を作ります。さらに人々のつながる情報網、コミュニケーションの機会を確保することで、協力して課題に取り組める素地を保ち、減っていくマンパワーを補いながら、

まちの魅力を知ること地域の自尊心をはぐくみ、地域への愛着心を高めます。

自然・人・町とその背景・将来、それら「まち」の姿を見つめながら、田舎と都会、歴史と未来像、自然と人の共存するまちを作っていきます。

協働・コミュニティ・行財政

● 住民が主人公となるまち

与謝野町に暮らす人、与謝野町と縁ある人、そして未来の与謝野町を創りあげていく子ども達。そんな多くの皆さんからいただいた想いや声は、豊かで美しい自然と実り多き田園、先人から受け継がれてきた伝統を「宝」とし、後世へ残していきたい原風景として心に深く刻まれていることを教えてくれました。それら一つ一つの原風景を守り育み伝えてきた一人ひとりもまた与謝野町の大きな魅力です。

人が減り、昔のような近所の賑わいを懐かしく感じられる時代だからこそ、わたしたち一人ひとりが、まち・地域を超え、世代を超え、人と人とが様々な縁でつながり、共に助け合いながら故郷を愛し、故郷に自信が持てるまちを創っていくことが求められています。

しかしながら、人口減少や少子高齢化等による地域縮小が避けられない中で、一人ひとりがいきいきと輝き、まちや地域が元気であるためには、住民と行政との協働、地域と地域とのつながり、個人と個人の共鳴が欠かせません。そして何よりも、この与謝野町を創り上げる主役は住民一人ひとりであること、一人ひとりの営みがこの与謝野町を動かしていくのだ、という熱き「よさの愛」と個々の「DIY(Do It Yourself)精神」のもと、わたしたちたちが暮らすこのまち自身の「地域力」を高めていくことが必要です。

「住民と行政」「住民と住民」「住民と与謝野町と縁ある人」との対話を通じ、相互に顔が見える関係を築きながら、住民主導のまちづくりを目指すとともに、持続可能な行財政運営と、創造力豊かで当事者意識を持って活躍できる人財育成しましょう。